

地域と大学

第48号

Newsletter No.48, Education Center for Regional Development

26年間の歩みから

地域創造教育センター長 阿部 耕也

1997年12月に開設されたばかりの生涯学習教育研究センター（地域創造教育センターの前身）に着任して以来、センターへの在籍期間は四半世紀を越えました。センターの歩みとほぼ重なることもあり、この間の取り組みと変遷をご紹介します。

生涯学習教育研究センターは、生涯学習に関する教育・研究、公開講座等の大学開放事業の推進、社会教育主事等の養成等の拠点として設置されました。公開講座の企画運営を担当する中で、地域からは様々な大学開放・生涯学習支援が求められていることに気づかされ、大学と接する機会のない地域への出前講座「しずだい飛ぶ教室」（2001年～）、正規の授業科目に市民が参加する市民開放授業（2005年～）といった新規の事業が立ち上がりました。

市民開放授業は開設後大きく広がった取り組みで、コロナ禍前には毎年300人前後の市民が400科目ほどの授業で学生と席を並べて学び、市民と学生が協働して地域づくりに関わる取り組みに発展しているケースもあり、本学の特色ともなった事業です。

約一ヶ月で4科目9単位を取得する社会教育主事講習を1998年からはセンターが担当しました。現在では東海地区を対象に他大学と輪番制で実施しています。大学と地域との連携・協働を進める地域人材でもある社会教育主事の養成に関わるこの講習は、講習後のネットワークを生んだ、本学にとって意義深い事業です。生涯学習・地域連携事業における人脈・ノウハウと同様、講習でも角替弘志先生からのご支援を得ながら進めることができました。

県や市町との連携・協働もセンターにとって大きな課題で、講座・研修の共催、地域づくりへの参画というかたちで進めてきています。中でも2002年度～2004

年度にかけて掛川市と共同で行った一連の文部科学省委託調査研究は、センターのあり方に大きな影響を与えました。『大学と地域の連携によるまちづくりのあり方に関する調査』では、全国160の市町村と104の大学に調査を行い、自治体が大学に最も期待することが（大学では重視されていない）「学生の社会貢献活動の推進」であることが示され、地域と連携する際の貴重な視点を得ることができました。これにより学生を含めた大学構成員全体で地域との連携・協働を進める方向に舵を切り、学内のシーズを活かした「地域連携応援プロジェクト」（2011年度～）、地域からのニーズに対応した「地域課題解決支援プロジェクト」（2013年度～）を立ち上げましたが、今では大学の様々な構成員が地域との連携・協働を進める取り組みにつながっています。

この間、2008年には、生涯学習教育研究センターと並行して地域連携協働センターが設置され、また2012年にはイノベーション社会連携推進機構の設立に伴い、生涯学習教育研究センターと地域連携協働センターが統合して地域連携生涯学習部門へと改組されました。さらにセンター20周年を迎えた2017年10月には、



地域との連携・協働の取組（東伊豆町ダイロキッチンにて）

地域連携生涯学習部門と学部横断型教育プログラムである「地域創造学環」が統合し、地域創造教育センターへと改組され、2020年には未来社会デザイン機構の傘下に入るかたちとなって現在に至っています。

組織名から生涯学習という言葉は消えましたが、新センターでは引き続き地域の生涯学習の推進に力を入れ、地域連携・地域人材育成の取り組みを進めています。生涯学習支援から地域連携・課題解決支援、地域人材育成に力点を移しても、そこでは世代を超えた学び合い、学生・教職員と地域住民との相互教育／相互

学習が重要であり、その意味で生涯学習が軸となることになり変わりありません。むしろ協働・共創につながる場面で、大学教育が苦手とする相互教育／相互学習が必要とされ、生涯学習の考え方が活かされているように感じます。生涯学習は地域と関わる大学のあり方を変える視点となるのかもしれませんが。

生涯学習教育研究センター設立から26年、変革の波にさらされるセンターですが引き続きご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

2023年度静岡大学公開講座

静岡大学では、地域社会に対し広く学習の機会を提供することを目的として、1978（昭和53）年より公開講座を実施しています。

今年度の公開講座は、下の表のとおり、4月から3月にかけて多岐にわたるテーマで実施しました。全体の実施状況は以下の表のとおりです。

今年度の実施結果をもとに、来年度以降の公開講座のあり方に結びつけていきたいと思えます。

次年度の公開講座の情報は地域人材育成・プロジェクト部門HPでご確認いただけます。

<https://www.lc.shizuoka.ac.jp/>



| 講座名 | 講師 | 日時 | 会場 | 対象 | 各日定員 | 人数(延べ) | 受講料 | 主催 |
|-------------------------------------|--|---|--------------------------------|------------------------------------|------|------------------------------|--------|----|
| 中学生からの自分流ランニング（春） | 教育学部准教授・野津一浩 走生塾・二見隆亮 | 4/23(日) 9:00～12:00 | 静岡キャンパス | 中学1年生以上どなたでも | 10 | 5 | 3,300 | 教 |
| 安心登山のための読図とナビゲーション（初級編） | プロアドベンチャーリーダー・ 宮内佐季子 教育学部教授・村越 真 | 5/14(日) 9:30～16:00 | 静岡キャンパス屋内外 | 山歩きの経験があり、地図アプリを利用して登山を楽しみたいと考える市民 | 30 | 16 | 1,700 | 教 |
| 私のミカン～ミカンの通年管理教室～ [全5回] | 技術部技術専門員・成瀬博規 技術部技術専門職員・周藤美希 農学部准教授・八幡昌紀 | 5/16、7/4、9/5、11/28、 2024年3/5（火） 13:30～15:30 | 農学部附属 地域フィールド 科学教育研究センター | 一般市民 | 10 | 41 | 11,000 | 技 |
| 多彩な視点から学ぶ伊豆半島の自然と社会 [全5回] | 教育学部教授・武井敦史 地域創造学環教授・太田隆之 グローバル共創科学部准教授・ 須藤 智 理学部准教授・徳岡 徹 地域創造教育センター教授・ 阿部耕也 | 5/24(水)、7/5(水)、 9/28(木)、11/7(火)、 2024年2/6(火) 18:00～19:30 | 東部サテライト ※対面・オンライン併用開催 | 一般市民 | 20 | 対面 49、 オン ライン 55 | 500 | 未 |
| 子どもの「やってみよう！」を支えるために：遊びの中のリスクマネジメント | 教育学部附属幼稚園園長・ 柴田知江 他 教育学部教授・村越 真 | 6/7(水) 9:30～11:30 | 教育学部附属幼稚園園庭 | 小学校就学前の子どもの保護者（満2～4歳のお子様の同伴可） | 20 | 16 | 無料 | 教 |
| 中学生からの自分流ランニング（夏） | 教育学部教授・村越 真 走生塾・二見隆亮 | 7/23(日) 9:00～12:00 | 静岡キャンパス | 中学1年生以上どなたでも | 10 | 4 | 3,300 | 教 |

| 講座名 | 講師 | 日時 | 会場 | 対象 | 各日定員 | 人数(延べ) | 受講料 | 主催 |
|-------------------------------|--|---|--------------------------------|---|----------|--------|--------------------|----|
| 作って学ぶ、工学部の化学実験 | 工学部教授・植田一正 技術部技術専門員・草薙弘樹 技術部技術専門職員・早川敏弘 | 7/29(土)・30(日) 14:00～17:00 | 浜松キャンパス | 中学生・高校生(保護者同伴可) | 各回 20 | 20 | 無料 | 工 |
| 紅茶作りに挑戦しよう | 農学部教授・稲垣栄洋 技術部技術専門員・西川浩二 技術部技術専門職員・成瀬和子 | 8/1(火) 13:30～16:00 | 農学部附属 地域フィールド 科学教育研究センター | 小学生とその保護者、一般市民 | 20 | 17 | 1,000 | 技 |
| ゲノム解析の最前線へようこそ! [全3回] | 静岡共同利用機器センター特任助教・兼崎友 技術部技術専門職員・森内良太 技術部技術職員・村野宏樹 グリーン科学技術研究所教授・道羅英夫 グリーン科学技術研究所研究補佐員・鈴木智子 技術部技術職員・伊藤由希子 | 8/1(火)・2(水) 10:00～17:00、 9/30(土) 10:00～11:00 | 8/1・2は対面(静岡キャンパス)、9/30はオンライン | 静岡県内高校生 | 12 | 29 | 無料 | 共 |
| 静岡大学キャンパスミュージアム公開講座2023 [全4回] | 理学部非常勤講師(ふじのくに地球環境史ミュージアム教授)・岸本年郎 人文社会科学部教授・篠原和大 理学部准教授・石橋秀巳 技術部・宮澤俊義 | 10/7・21・28、 11/4(土) 10:00～12:00 | 静岡キャンパス | 一般市民、学生、小中高生(中学生以下は保護者同伴) | 20 | 25 | 1,200 (小中高生は無料) | キ |
| 中学生からの自分流ランニング(秋) | グローバル共創科学部教授・杉山康司 走生塾・二見隆亮 | 10/22(日) 9:00～12:00 | 静岡キャンパス | 中学1年生以上どなたでも | 10 | 2 | 3,300 | 教 |
| インフォマティクス変化の兆候 | 情報学部助教・市川淳 情報学部講師・中川恵理 情報学部准教授・金鎮赫 情報学部教授・遊橋裕泰 | 11/11(土) 10:35～12:00 | 浜松キャンパス | 興味のある方ならどなたでも | 70 | 34 | 無料 | 情 |
| 安心登山のための読図とナビゲーション(中級編) | 教育学部教授・村越真 オリエンテーリング元日本代表選手・小泉成行 | 12/9(土) 9:30～16:30 | 宇津ノ谷峠 つたの細道公園 | ①過去に本学開催の公開講座の初級編を受講した方(安心登山のための地図と地図アプリ活用術(初級編)を含む)、又は地形図の基礎知識がある方②登山経験者で7km程度を無理なく歩ける方③YouTubeによる事前学習(予習60分程度)が可能の方 | 20 | 10 | 4,100 | 教 |
| 中学生からの自分流ランニング(冬) | グローバル共創科学部教授・杉山康司 走生塾・二見隆亮 | 2024年1/21(日) 9:00～12:00 | 静岡キャンパス | 中学1年生以上どなたでも | 10 | 4 | 3,300 | 教 |
| 第4回 邦人作品の調べ | 教育学部講師・服部慶子 教育学部准教授・高橋智子 | 2024年3/9(土) 14:00～16:00 | 静岡市葵生涯学習センター | 一般市民 | 100 | 84 | 無料 | 教 |

【主催欄凡例】

教=教育学部 情=情報学部 工=工学部 共=静岡共同利用機器センター キ=キャンパスミュージアム
未=未来社会デザイン機構 技=技術部

地域創造学環部門の下半期（10月～3月）事業報告

静岡大学地域創造学環は、2016年4月にスタートした、従来の学部の枠組みを超えた新しい全学学士課程横断型教育プログラムです。幅広い教養と高い専門知識を身につけながら、地域（フィールド）に飛び出し、より魅力的な地域社会の創造に取り組むことのできる人材の育成を目指しています。

地域創造学環のカリキュラムの柱となる「フィールドワーク」の授業では、地域と連携しながら、地域課題の発見及びその解決に取り組んでいます。2023年度後学期は、静岡県内14箇所において、15のテーマのもとでフィールドワークに取り組みました。活動の内容を次頁で紹介しています。

また、2022年度の活動をまとめた『フィールドワーク報告書』を、地域創造学環のホームページに掲載しています。そのほかにも、各フィールドを担当する教員や学生たちの活動を随時紹介しています。ぜひご覧ください。



静岡大学
地域創造学環ホームページ
<https://www.srd.shizuoka.ac.jp>

【2023年度後学期フィールドとテーマ】

| フィールド | テーマ |
|--------------------------|---|
| 静岡市 清水港周辺地域 | 清水港周辺地域が“つながる” “ひろがる” “にぎわう” 活動 |
| 静岡市 庵原地区 | 庵原地区の地域資源を活かした食・スポーツによる地域活性化 |
| 静岡市 おまち | おまちを中心とした静岡市内のにぎわい創出 |
| 静岡市 浅間通り商店街 | 浅間通り商店街のにぎわい創出 |
| 焼津市 浜通り | 地域住民と高校生との交流に基づいた地域づくり活動 |
| 浜松市 浜松文芸館 | 私のまちの文芸世界 |
| 浜松市 佐久間町 | 交流の輪づくり～新たな関係構築～ |
| 掛川市 田園空間博物館 南遠州とうもんの里 | 子どもたちを呼び込むための環境づくり |
| 御前崎市 | 御前崎スポーツ振興プロジェクト ～スポーツによる交流人口の拡大と産業振興の推進～ |
| 松崎町 | ①なまこ壁が残る松崎町商店街のにぎわい創出 ②防災と観光の両立 |
| 東伊豆町 | 東伊豆町の新しい観光スタイルの発掘・創出プロジェクト |
| 伊豆半島ジオパーク | 地域づくりとジオパーク |
| 多世代の居場所づくり | 多世代の居場所づくりと防災教育の実践 |
| 学内地域連携拠点 | 静大発 地域と大学の連携を広めよう！ |

おまちフィールド

おまちフィールドでは、静岡市の「おまち」と呼ばれる、呉服町、両替町、七間町、常盤町、紺屋町を中心に開催される地域振興を目的とした「おまちバル」イベントの活動に参加しています。

今学期も広報活動に重点をおき、前期の「春のおまちバル」に続いて、「静岡秋バルめぐり2023」に向けて、学生たちがフィールドワーク担当教員と共に参加店を訪問し、バルメニューや普段のお店の人気メニュー、食材や調理方法のこだわりについての話を伺い、学生が運営するInstagramアカウントで紹介を行いました。期間中は、天候にも恵まれ、イベントは大盛況に終わりました。



【学生による取材】

学内地域連携拠点フィールド

学内地域連携拠点フィールドでは、「つなぐ」を活動のテーマとし、“地域創造学環と地域をつなぐ”、“それぞれのフィールドおよび学生同士をつなぐ”取り組みを行っています。取り組みの一つとして、地域創造学環フィールドワーク活動の情報発信のため、実際のフィールドワークに同行し、学生たちの活動の様子を取材しています。その後、取材した内容を整理し、活動紹介記事を作成しています。記事は「フィールドワーク紀行」として、ホームページに掲載されています。

<https://www.srd.shizuoka.ac.jp/fw-kiko/>



浜松文芸館フィールド

浜松文芸館フィールドでは、11月10、11、12日の3日間、浜松市の鴨江アートセンターで展覧会『CONTEMPORARY (HAIKU) ART <現代(俳句)美術>』を開催しました。出展者は浜松文芸館フィールドワークメンバーの田中奏大、山本陽大、小笠原凜、白田奏美、静岡大学教育学部美術教育専修の織田明香、岡本晴子の合計6名で、各自のアート作品と、その作品に対して俳句を詠んだものを印刷したパネルを展示しました。また、この展覧会のチラシには鑑賞者が作品について俳句を詠むための短冊がついており、それぞれの方が作品を鑑賞して詠んだ思い思いの俳句が会場内の壁面に展示されました。現代アートと俳句を掛け合わせるという斬新なアイデアが、見事に表現された展覧会でした。



後日、『CONTEMPORARY (HAIKU) ART <現代(俳句)美術>』展の活動報告として、出展作品の画像と俳句、そして鑑賞者の俳句などを浜松文芸館展示室内の掲示板に展示しました。また、このミーティングでは展覧会を振り返って、良かった点や改善点についても話し合いました。そして、来年度の活動内容についても話し合い、来年度は『CONTEMPORARY (HAIKU) ART <現代(俳句)美術>』展の図録作成を中心に活動を行っていくことが決定しました。



地域人材育成・プロジェクト部門の下半期事業報告

静岡大学創立60周年記念事業を継承した連携講座

1 静岡大学・読売新聞連続市民講座「社会を読み解く、社会を拓く」

| 回 | 開催日 | タイトル | 講師 | 参加者 |
|---|-----------|---|------------------------|-----|
| 1 | 7/8 (土) | 人工衛星とAIで切り開くスマート農業の未来 | 菌部 礼 (静岡大学農学部・准教授) | 84 |
| 2 | 8/19 (土) | 古文書から読み解く社会 | 松本和明 (静岡大学人文社会科学部・准教授) | 95 |
| 3 | 9/9 (土) | 先史考古学で読み解く人類社会の発展 ～ホモ・サピエンスの誕生に遡って歴史を俯瞰する～ | 山岡拓也 (静岡大学人文社会科学部・教授) | 100 |
| 4 | 9/30 (土) | 変革する情報教育 ～デジタル市民として期待されていること～ | 遠山紗矢香 (静岡大学情報学部・講師) | 76 |
| 5 | 10/21 (土) | 生成系AIと自然言語処理 ～今できることと課題点～ | 狩野芳伸 (静岡大学情報学部・准教授) | 91 |

■会場：静岡県男女共同参画センター（あざれあ）大ホール

■参加費：無料

■連携先：読売新聞東京本社静岡支局

2 静岡大学・中日新聞連携講座「探る、掘る、解く ～未来へつなぐアプローチ～」

| 回 | 開催日 | タイトル | 講師 | 参加者 |
|---|-----------|--|---------------------|-----|
| 1 | 10/24 (火) | CO ₂ の削減&利用でCOP会議の約束草案に 貢献する革新的な触媒反応技術 | 福原長寿 (静岡大学工学部・教授) | 44 |
| 2 | 11/7 (火) | 浜松城から駿府城へ | 本多隆成 (静岡大学名誉教授) | 48 |
| 3 | 11/21 (火) | 生成系AIの現在、利用とこれから | 狩野芳伸 (静岡大学情報学部・准教授) | 48 |
| 4 | 12/19 (火) | 宇宙から見た大地の動きとそのメカニズム | 三井雄太 (静岡大学理学部・准教授) | 52 |
| 5 | 1/23 (火) | 金属も壊れる!? 疲れにくい金属を科学する | 菊池将一 (静岡大学工学部・准教授) | 38 |

■会場：静岡大学浜松キャンパス附属図書館分館・学生支援棟（S-Port）3階大会議室

■参加費：無料

■連携先：中日新聞東海本社

主催事業

飛ぶ教室

「修善寺の町歩きをDXでアップデートする」

修善寺の住民がICTを活用して自ら情報発信を行うための技術を習得することを目的に、一石庵の原京氏と連携して講座を開催しました。講座の最後にはこれからに向けてのアイデアを発表しました。

- ・日時：2023年12月7日（木）10:00～11:50
- ・会場：一石庵（伊豆市修善寺）
- ・プログラム：

- ①ICTを活用した修善寺温泉街町歩き
- ②ICTを活用した町歩きを振り返り対話
- ③これからに向けてのアイデア発表

- ・参加費：無料
- ・対象：修善寺地区住民
- ・参加者数：11名

藤枝市歴史講演会/ワークショップ

藤枝市における地域活性化への関心の喚起とその取組を促進することを目的に、旧東海道や藤枝宿の歴史に関する講演会を開催し、講演後には地域資源マップを作成するワークショップを実施しました。本イベントは藤枝市地域政策研究・創造事業令和5年度採択事業（研究名：回遊性向上による商店街の活性化と地域ブランディングに関する研究）の補助により実施しました。

- ・日時：2023年12月24日（土）13:30～16:00
- ・会場：藤枝市生涯学習センター
- ・プログラム：

- ①歴史講演会「近世東海道と藤枝宿」
講師：本多隆成（静岡大学名誉教授）
- ②ワークショップ「旧東海道地域の地域資源マップを作ろう」

- ・参加費：無料
- ・参加者：25名

主催事業

公開シンポジウム

「地域課題をめぐる取り組みの持続可能性を考える」

地域の課題を公募し、その解決支援を試みる静岡大学の「地域課題解決支援プロジェクト」も丸10年となり、県内各地で活動が展開されています。これらの地域課題に対する取り組みを、今後どう継続・発展させていくか、その持続可能性について検討しました。

- ・日時：2023年12月27日（水）12:55～16:00
- ・開催方法：オンライン開催（Zoom ミーティング）
- ・プログラム：

[報告1]「松崎町における地域づくりの課題と可能性」

報告：深澤準弥（松崎町長）ほか

[報告2]「南伊豆町における地域づくりの課題と可能性」

報告：山口一実（南伊豆町地方創生室・室長）ほか

[報告3]「東伊豆町における地域づくりの課題と可能性」

報告：荒武優希（合同会社so-an代表社員）

[報告4]「みんなのチャレンジ基地ICLaの挑戦」

報告：宇賀田栄次（静岡大学学生支援センター・教授）

[報告5]「こども達の「できる！」を社会の中に～株式会社こども会議（仮）の挑戦～」

報告：安池中也、泉綾子、こども社員（株式会社こども会議（仮））

[報告6]「子どもの居場所・親の交流の場をつくる～活動8年を振り返る～」

報告：小林タバサ（しずおかキッズカフェ代表）

[パネルディスカッション]

パネリスト：報告者

コーディネーター：阿部耕也（静岡大学地域創造教育センター・教授）

- ・参加費：無料
- ・対象：一般市民、教職員、大学生
- ・参加者数：29名

飛ぶ教室

「伊豆半島ジオパークについて学ぼう！」

静岡大学地域創造学環の学生が企画した東伊豆町の地域おこしイベント「東伊豆魅力発見大学校」において、東伊豆について学ぶ講座を開催しました。

- ・日時：2024年3月9日（土）10:00～、12:00～
- ・会場：旧稲取幼稚園
- ・講師：阿部耕也（静岡大学地域創造教育センター・教授）ほか
- ・参加費：無料

共催事業

地域づくり人材研修事業「公民館主事等研修会」

静岡県教育委員会と連携し、公民館等の事業や活動に関する研修会を開催しました。

- ・日時：2023年11月28日（火）10：00～16：00
- ・会場：静岡市興津生涯学習交流館
- ・プログラム：

[事例報告] 令和4年度優良公民館表彰館の取組

①「地域文化を伝承する～マップを活用した情報発信～」
廣瀬 陽（清水区生涯学習交流館運営協議会・課長）

②「持続可能な地域のオアシス」

佐藤拓男（浜松市北部協働センター・所長）

[行政説明]

「学校・家庭・地域における連携協力体制の推進について」増田直功、堀野良介（静岡県教育委員会社会教育課地域家庭班）

[基調講義・実践発表・グループワーク]

①テーマ説明「すべての人のウェルビーイングの実現に向けて社会教育が果たす役割」菅野真弘（静岡県教育委員会社会教育課地域家庭班）

②基調講義「シティプロモーションは人々の幸せを創りだせるのか」河井孝仁（東海大学文化社会学部・教授）

③実践発表「株式会社こども会議（仮）の挑戦～こども達の「できる！」を、社会の中に～」中安中也（株式会社こども会議（仮））

④グループワーク 「「すべての人のウェルビーイングの実現に向けた」取組を企画・立案してみよう！」
進行：菅野真弘（静岡県教育委員会社会教育課地域家庭班）

・対象：公民館職員、市町生涯学習・社会教育関係職員、市町地域振興関係職員、社会教育主事、大学生等

・参加者数：38名

・主催：静岡県教育委員会、静岡大学地域創造教育センター

公開イベント「日独で考える地域と学校の教育」

地理教員志望のドイツ人留学生を招き、日本とドイツの学校および地理教育の共通点や違いについて理解を深めることを目的に、意見交換会を実施しました。

- ・日時：2023年12月21日（木）12:00～14:00
- ・会場：静岡大学静岡キャンパス
- ・プログラム：

①大学生の目からみたドイツの学校と地理教育

報告者：マーティン・ビルクナー（ドレスデン工科大学学生）

②大学生の目からみた日本の学校と地理教育

報告者：静岡大学学生

③日独の地理教育についての座談会

話題：気候変動教育、フィールドワーク教育、防災教育
話題提供者：静岡大学学生

- ・参加費：無料
- ・対象：ドイツや地理・地域教育に興味のある大学生、高校生等
- ・参加者数：10名
- ・主催：静岡大学地域創造教育センター、静岡大学教職センター

企画協力事業

令和5年度 吉田町大学特別公開講座 「しずおか未来学～多様化する社会を考える～」

大学特別公開講座とは、吉田町民の生涯学習（一人一人が生涯いつでも、自由に学習できること）の推進を目的とした講座です。静岡大学の講師による全3回の講座を開催しました。

- ・日時：2023年12月1日（金）、12月8日（金）、
12月15日（金） 19:00～20:30
- ・会場：吉田中央公民館
- ・プログラム
- ①12/1（金）「少子高齢化社会におけるDXの活用」
講師：須藤 智（静岡大学グローバル共創科学部・准教授）
- ②12/8（金）「コンパッションと対話の力～相互理解とウェルビーイングのために～」
講師：竹之内裕文（静岡大学未来社会デザイン機構・教授）
- ③12/15（金）「古文書から読み解く社会」
講師：松本和明（静岡大学人文社会科学部・准教授）
- ・受講料：2,000円

2023年度企画実施委員会

当センターには、「企画実施委員会」が組織されています。地域連携・課題解決に関する事項や全学公開講座の企画・立案・実施に関する事項、その他大学開放および地域人材育成に関する事項について検討しています。今年度の委員は以下のとおりです。

- 阿部 耕也 地域創造教育センター長
- 水谷 洋一 地域創造学環部門長
- 山本 隆太 地域人材育成・プロジェクト部門長
- 笠井 仁 人文社会科学部教授
- 渋谷かさね 教育学部准教授
- 白井 靖人 情報学部教授
- 富田 誠 理学部教授
- 戸田三津夫 工学部准教授

- ・対象者：高校生以上の方
- ・受講者数：①16名、②16名、③14名
- ・主催：吉田町教育委員会

高大連携事業 東伊豆フィールドワーク

- ・日時：2024年3月7日（木）～9日（土）
- ・会場：旧稲取幼稚園、東伊豆町内
- ・プログラム
- ①3/7（木）地域ボランティア活動
- ②3/8（金）グループにわかれてフィールドワーク
- ③3/9（土）「東伊豆魅力発見大学校」運営、学習成果発表
- ・参加者：成立学園高等学校（東京都）1・2年生、静岡大学地域創造学環学生

市民開放授業

市民開放授業は、静岡大学の学生が受講している正規の科目の一部を一般市民の方に開放するものです。

2023年後学期の開講科目数・受講者数の状況は次の通りです。

| 開講科目数 | | | 受講者数 | | |
|---------|---------|----|---------|---------|----|
| 静岡キャンパス | 浜松キャンパス | 合計 | 静岡キャンパス | 浜松キャンパス | 合計 |
| 12 | 1 | 13 | 23 | 4 | 27 |

（1名は両キャンパスで受講のため、静岡・浜松それぞれでカウント）

また、2024年度前学期事前説明会を開催します。

- ・日時：3月28日（木）14:00～15:30
- ・会場：[静岡キャンパス] 事務局別館1A会議室
[浜松キャンパス] 附属図書館分館・学生支援棟（S-Port）3階大会議室

地域と大学 第48号

- 発行日——2024年3月25日
- 発行——静岡大学地域創造教育センター
- 編集——上田 満津子
- 〒422-8529 静岡市駿河区大谷836
（事務局別館2階）
- TEL: 054-238-4817 FAX: 054-238-4295
- E-mail: kaiho@suml.cii.shizuoka.ac.jp
- URL: www.lc.shizuoka.ac.jp/
- （事務局）学務部地域連携推進課 ☎ 054-238-4055